

【評価実施概要】

事業所番号	3770104218		
法人名	ひまわり介護有限会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	香川県高松市鬼無町藤井126-1 (電話) 087-882-7131		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年6月25日	評価決定日	平成19年8月23日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは家主手作りの木造1階建てで、明るくぬくもりのある家庭的雰囲気がある。管理者と職員は、全員同じ医院の同僚であり、入居者もまた、その医院から引き続いて入居しており、全員寝たきりでリスクが高い。管理者は、理念をもとに、どんなステージの事例も断らないことをモットーにしており、職員も専門的知識、技術をもって、生き生きと利用者一人ひとりを尊重した取り組みをしている。また、協力医療機関とは、24時間対応の協力体制であり、連携が取れている。
開設して1年に満たないが、職員は積極的に地域活動に参加する等、地元の人々と交流することに努めており、今後、更なる発展に期待したい。

【情報提供票より】(平成19年6月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 21日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤	6人、非常勤 4人、常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋造り		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000円	その他の経費(月額)	15,000円+実費
敷金	有()円 無()円		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円 無()円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400円	昼食 500円
	夕食	500円	おやつ 0円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月5日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1		要介護2			
要介護3		要介護4		2名	
要介護5	6名	要支援2			
年齢	平均 87歳	最低	73歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふじさわ医院 KKR高松病院 デンタルステーション鬼無
---------	-----------------------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今度が初回であり、今後の取り組みに期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、計画作成担当者を中心に、職員全員の良いチームワークで意欲的に取り組み、実践に向け、前向きな姿勢が見受けられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	第1回の運営推進会議において、事業所から状況報告をし、地域の方々、利用者家族、市町村担当者の意見を、サービス向上に活かしていくよう取り組んでいる。市担当者や地域包括支援センターとも、交流を深めていけるよう努力している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時には必ず声をかけ、お茶の接待をしながら、利用者のホームでの様子を報告し、家族の意見や要望を聴いている。家族からの意見等は個人記録に残し、職員間で共有して、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所開設にあたり、地域の方々に2月に説明会を開いたが、まだ、地域の自治会等への働きかけは行っておらず、職員から地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。事業所の七夕会等に、地域の人々の参加を呼びかける等の取り組みをしている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は、どんなステージの事例も断らないことをモットーに、利用者がその人らしく生活を送れる事業所独自の理念を掲げている。地域密着型サービスの理解はできているが、まだ地域に反映するところまでには至っていない。	○	現在掲げている理念に、さらに、利用者が、地域の中でその人らしく暮らし続けられる事業所独自の具体的な理念の構築を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員一人ひとりが理念を共有し、日々のケアの中で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2月10日に、地元で事業所の説明会を行っている。また、職員から地域の行事に参加し、交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解し、サービスの質の確保について、前向きに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごと、定期的に運営推進会議を行い、第1回は6月9日に開催した。地域の方々、利用者家族、市町村担当者の意見をサービス向上に活かしていくよう取り組んでいる。	○	地域の支援を得るためにも、運営推進会議に加えて、現在取り組んでいる「ひまわり通信」を早期に発刊し、活用されることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者や地域包括支援センターの方々と交流を図り、市町とともにサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には、来訪時に必ず声かけをするよう心がけている。度々来られない家族には、電話や手紙で近況報告をしている。6月から「ひまわり通信」というホームだよりを発刊する予定にしている。	○	6月から毎月発刊するホームだよりに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見ボックスを設置し、来訪時に必ず声かけをする等、家族とのコミュニケーションが図れるようにしている。家族の意見は職員間で共有し、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時より、職員の異動もなく、利用者は馴染みの職員の介護を受けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、管理者と計画担当者は研修中である。また、他の職員は、7月から2日間ずつ、近隣のグループホームで介護実習を計画している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、近くのグループホームと交流を持ち、訪問活動を通じて、サービスの質を向上させる取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は全員、某医院から引き続いて入居している。職員は、利用者の従来の生活を考慮しながら、家族と相談し、安心、納得したうえで、サービスを利用するための柔軟な対応を心がけている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との会話は少ないが、職員は家族の一員として、年長者を尊重している。時には教えられ、学んだり、よい関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の会話や表情、また、家族との話し合いから、希望や意向の要望を汲み取れるように努めている。内容は記録に残し、職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現在の身体状況に合わせ、関係者や家族が話し合い、意見や要望、アイデアを反映した、個別の具体的な計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回は定期的に見直し、利用者の状況、家族の要望、職員の情報に応じて、見直しが行われている。変更内容は、個別記録と申し送り時に伝達している。現在の伝達方法について、職員にアンケート中である。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関との連携を図り、食事等も利用者や家族の状況に応じて、柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、定期的に、協力医院から訪問診察に来てもらっている。入院を要する場合は、連携した医療機関や希望の医療機関へ支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在の利用者は、家族と十分に話し合い、医師、職員全員が方針を共有している。	○	看取りの介護説明時に、家族から同意書を得るなど、今後の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りやプライバシーを尊重した言葉かけや対応をしている。記録等の個人情報の取り扱いについても、留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムに合わせたペースで、職員はケアの支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、全員寝たきりのため、食事の準備や後片付けはできないが、一人ひとりに応じた調理方法や目でも楽しめる工夫をしている。職員は、利用者との会話を楽しみながら、食事介助をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のリスクは高いので、一人ひとりの体調に合わせて、週2回特別浴槽を使い、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の誕生会を開いたり、ベッド上から外の景色を眺め、電車や人の往来で季節を感じとれる工夫をしている。利用者の表情も穏やかである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、全員ベッド上の生活をしている。ベッドまたは車椅子のまま、ホーム内の七夕飾り等が眺められる工夫をしている。	○	利用者の状況に合わせ、車椅子でのホーム内や戸外への散歩などを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、歩ける人はいないので、玄関の鍵はかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者は防火管理者資格を持ち、定期的に防災ミーティングを行い、職員が統一した行動が取れるよう体制作りをしている。また、畑仕事などで地域の協力が得られるように働きかけている。	○	運営推進会議を通じて、地域の協力が得られる取り組みを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医院の管理栄養士が、食べやすい工夫や摂取状況を確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で明るく、風通しのよい玄関やホール、ウッドデッキに、木製の手づくりテーブルと椅子を設置し、周辺に観葉植物、七夕飾り等の季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には、自分の写真やテレビ、時計等の馴染みの物を持ち込み、飾っている。居室入り口の表札や部屋のカレンダーの字が、小さく見えにくいと思われる。	○	現在、一人で歩ける利用者はいないが、よく分かる表示が望まれる。